
グリーンフィンガーズ

笹丘かもめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グリーンフィンガーズ

【Zコード】

Z3356C

【作者名】

篠丘かもめ

【あらすじ】

最近園芸に凝り始めて、アサガオの種を買つてきた。

最近ガーデニングに凝っている。

昨日は垣根の剪定をした。すっかり密に茂り、道路側からは何も見えない上出来ぶりだ。

今日は花を植えよう。

そう思つて昨日買つてきたアサガオの種の袋を切ると、見慣れた種に混じつて、一粒だけ違う種が入つていた。

大きさは大豆くらいで、色は肌色。

表面にしわが寄つていて、極小の握りこぶしのようだ。

珍しい種だな。

選別作業の過程で混ざつたんだろうか？

私はそう思つて、朝顔の種をふやかしている間に、この種をざくざくの木の下に埋めた。

木の下を見て驚いた。

まるで新種のキノコのよつに、せいぜいマッシュ棒程度の大きさの腕が、地面から生えている。

腕の先端には握りこぶしがある。これもまたすこしく小さい。

不気味だとか言う以前に、なんとも不思議で・・・意外と可愛い。恐る恐る水をかけてみると、少し血色が良くなつたよつて思えた。新種の植物なんだろうか？

でも、植物でなくたつていい。どつちにじみ、抜く気にはなれないから。

一曰目。

私はふやかしたままのアサガオの種には一瞥もくれず、一散にざくろの木の下に向かつた。

・・手は少し大きくなつたようだ。

タバコ程度の大きさになり、小さなこぶしを空に突き上げている。血色があまりよくないので、水をかけてみると元気になつた。

・・・・この手、肥料はいるんだろうか？

四日目。

あの手、肥料は自分で調達しているらしく。

十五センチ程度まで成長した手は、今日やっと手のひらを開いた。

私は力ビでしまったアサガオの種を庭にぶちまけた。

するとあの手は指先をフルフルさせながら限界まで腕を伸ばして、一番近くにあつた種をひとつつまむと、一旦ぴょいっと土の中に引っ込んだ。

数十秒経つても、一度出てきたときには、もつ種をつまんでいなかつた。

実に利口な手だな、と感心した。

八日目。

昨日、一昨日と私が元気のないぞくろの根元に撒いた油かすをつまんでは一生懸命出たり引っ込んだりを繰り返していた。

もうだいぶ大きくなつた。

そこでわかつたことがある。この手は女性の手だ。

色白で、指も細くて長く、かなり美しい。

九日目。

恐ろしいものを見た。

手は成人女性のものと同程度まで大きくなっている。
今日、油かすがなくなつたのでまた撒いてみようかと思案している
と、とうとう枯れてしまつたらしいざくろの木の下にスズメが跳ね
てきた。

手が少し動いたようだつた。

スズメは手に目もくれず、地面をつついている。

一瞬の出来事だつた。

手は土の中に引っ込み、スズメはいない。

ただ私の手は確かにそれを見ていた。細い白魚のような指がスズメ
に絡みつき、そのままざるりと地中に引っ込むのを。
地中からはたつた一度、細い鳴き声が聞こえた。

・・・明日手を抜いてしまおつ。

十日目。

・・・しかし、これをどうやって抜けばよいのだろうか？
素手で抜けば、きっとズズメと同じ目に会うだろう。
縄をかけて抜けようか？

あそこまで成長した腕が、そんなことで抜けるとは思えない。
第一、地中の姿がどうなっているのか知らないのだ。

・・・それならば、枯らしてしまえばいい。
私は手に灯油をかけ、火を放った。
手はびっくりしたようにバタバタと暴れたが、火はなかなか消えない。
手は力なく地中に引っ込んだ。

・・・そしてそれから一時間が経つた。

手の生えていた穴から昇っていた煙も、もうすっかり収まった。

もう大丈夫だろうか？

私は手の生えていた穴の周りを蹴り、埋め始めた。
おそらく、生えてこないだろ？。

・・・する。

足の下に、いやな感触がした。

「うわッ」

私の足の周りに、子供のものと同じ程度の大きさの腕が数十本、ずるずると地中から姿を現しつつあった。

そして、それらが一斉に私の足を掴んだ。

ずぼつ、といつ音がして足元が陥没する。

叫び声は、手に口をふさがれて出すことができなかつた。

体が地面に飲み込まれていく。

地中は手で埋め尽くされていった。

手が足や腕に絡みつく。

首に絡みつき、襟首からもずるずると服の中に入つてくる。

助けてくれ！

そつ叫んだのと、口の中には手がもべつことではいるのせまほ同時に、だつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3356c/>

グリーンフィンガーズ

2010年10月12日04時17分発行